

国語解答用紙

受験番号

氏名

得点

一

問一 ア 観賞 イ 解消 ウ 移住 エ 限界

問二 (あ) 実体感のところにすゝる環境 (い) 本能で生きゝはじまった

問三 ほんものにとにせものの区別がつかないほどに本物に似た製品がつくりだされたこと。

問四 めんどどうな手入れ

問五 生命(感) 問六 ウ

問七 1 快適 2 人工 問八 ア

問九 現代人は科学技術を用いて実体感のともなう人工的環境で生きていけるようになりつつあるので、火星という地球とは全く異なる環境でも人間が生きられると筆者は確信しているが、私は技術がさらに進化して快適になった地球を人間がわざわざ出ていくとは思わない。

二

問一 (あ) 利器 りき (い) カクダイ 拡大 (う) シュウトク 習得(修得)

問二 エ 問三 (一) 3 (二) (1) ウ (2) ア (3) エ (4) イ 問四 ウ

問五 考える基礎となる、全てのものにあてはまる土台であるから。

問六 (一) ア

(二) P 物を身に感じて生きる Q 疑問を持ち続けること

問七 イ 問八 ア 問九 心の荒廃

心に木を植えるというのは、

問十 古典や芸術のよう、美しく豊かなものに対して、常識や世間体や権威に、われなき素直な気持ちを持ち、向き合うことである。そこには、心の荒廃に、対抗したり、向き合う。実際にし